

■報告

技術士が視た中国汶川地震～汶川地震と国際協力雑感

私は、ニュースなどにより、汶川大地震の被害の状況やその悲惨さについて理解したつもりでいた。そして、おそらくほとんどの日本人と同様、現在では、自国の災害のことに関心が移り、他国の地震災害のことは忘れていた。そんな時、このレポートを読み、壊滅した現地の状況や、復興には膨大な財源と時間が必要なこと、被災者の深い心の傷などをあらためて認識した。先日、日本でも震度 6 弱の大型地震が発生したが、被害はほとんどなく、我が国の耐震性能の高さが覗える。中国は、既存ストックの数や国土の面積など、日本とは桁違いであるが、これまで経験してきた耐震に関するノウハウを、積極的に役立てていくことが重要であると思いました。

(シビテック K.K)

.....

二回もの訪中お疲れ様でした。地震の悲惨さがひしひしと伝わってくる内容でした。止まったままの時計塔の写真が見たいなと思ったら、ちゃんと最後に載せてくれていました。さすがに読者心理を読んだにくい構成ですね。近頃日本でもお盆前に静岡で震度 6 弱の地震があり、大きな被害が発生しました。その後八丈島や石垣島、福岡などで地震の報告がなされています。ずいぶん最近続くなと思い、地震の発生頻度を日本地震学会のホームページで調べてみたら毎年平均して 1 日に 3 から 5 個の体を感じる地震が発生しているようでどうも最近特别多いこともないようです。でも、四川大地震と同規模の地震が東南海で明日起こるかも知れないわが国。東京には娘も 1 歳の孫もいます。この記事を読んで、頼むからもう少し南の方で起きてくれと願う身勝手なジージの感想でした。

(M.S)

■寄稿文

「泥炭土の圧縮についての Reology 的考察」～調査屋 50 年の足搔き～

泥炭の調査研究に携わって 50 年という技術士の永年のご努力に敬服する。思えば私も経験年数は浅いが、泥炭という得体の知れない不思議な物体とつきあい始めたのは、道路工事を担当することになった時であった。札幌は北東部から北西部にかけて、泥炭を主体とした軟弱地盤地域が広く分布しているが、泥炭地盤に道路を築造しようとするとならぬが必ず沈下が起こる。そこで安価なプレロード工法を採用する場合に圧密沈下量、沈下時間、残留沈下量等が問題となる。泥炭は繊維の残るものや、味噌状のものなど種類は実に様々でそれぞれ違った性状を呈し、なかなか計算通りにならず工事完了後の会計検査対策に苦労した思い出がある。「泥炭土」ということばに、懐かしく昔を思い出した次第である。

(K.T)

.....

副題に「調査屋 50 年の足搔き」とありますが、「足搔き」とはとても思えない内容に敬意を表します。技術士建設部門の地盤関係の技術寄稿文ですので、専門外の方には理解しがたい内容かもしれません。(専門の技術者でもちょっと難しいかも……?)ただし、泥炭の圧密沈下問題は、地盤技術者にとって大変難しい問題ですので、それに真正面から取り組んでいる技術士の奮闘が見えるように思います。寄稿文の中では、海外の論文まで参考にされており、泥炭土の圧縮問題の解明に努力されていることが分かります。さらなるご健闘を祈念いたします。

(寒地土木研究所 Y.K)

## ■会員のひろば

### 「私のお薦めコーナー（食べ物）」と「はこだてイカマイスター」

「会員の広場」は117号と118号の2号を読ませて頂きました。前号は新たな「技術士の会」の発足といった会員の広がり紹介でしたが、今回は会員がその地域でのお勧めを地域の特産を活用した「食べ物」と「地域活性化の施策紹介」といった「地域に根ざした」紹介投稿となっております、楽しく読ませて頂きました。

今日、地方分権や地域振興が色々な場で話題となっている中で、今回の投稿は“そうなんだ”とホット一息付けるような内容になっており、執筆者の方の人柄が伺えるものでした。出来れば、本文では写真が白黒のため巻頭のグラビアページにも口絵的にカラー写真（しじみラーメンと函館の新鮮なイカ）

も掲載して欲しいです。（お願い）

今回は北海道の最北と最南の地の話でしたが、今後も「会員の広場」では、色々な地域で活躍されている技術士の方やその地域を訪れた方（仕事、旅行）が地域の「こんなものあんなもの」的な取り組みやイベント、地域のお勧めの食べ物紹介など会員からの硬軟取り混ぜた色々な情報発信としてシリーズ化してもらいたいと思います。 (J.I)

#### 編集担当より

読者の声欄は、本号より新たに企画としたものです。今回は118号4編に対して6人の読者から感想等を頂きました。盛況な企画となるよう努力しますので、モニターになって読者の声投稿のご協力をお願い致します。

\*

\*

\*